



2015年度 政治学入門 A 最終試験講評

今回の問題文は下記の通りでした。

〔問題〕

R. シュミットと高島通敏による「政治的リーダーシップの4分類」について、講義の内容を踏まえつつ、420字以上で説明せよ。

〔注意事項〕

◇解答が420字（解答用紙で14行＝用紙の点線部分）に満たない答案は、すべて0点とする。

※字数の計算方法については下記の〔解答用紙の使い方〕も参照のこと。

◇誤字・脱字・文章表現の誤りなどは、すべて減点の対象とする。必ず「見直し」をすること。

◇解答を書ききれないときは、用紙の裏に続きを書き、それでも足りないときは、挙手して2枚目の用紙を受け取り、さらに続きを書くこと（2枚目にも記名を忘れないように）。

◇この問題用紙は持ち帰ること。

〔解答用紙の使い方〕

①答案は横書きとし、黒いマス目（■）も、そのまま使用する（飛ばさずに記入すること）。

②「見出し」をつける場合、そのつど、用紙の1行ぶんを使うこと。なお見出しに関しては、実際の字数にかかわらず、ひとつあたり1行（＝30字）と計算する。

③「図表」を使う場合、用紙の15行目以下（点線より下の部分）に記入すること（この点は7月29日の講義での説明とは異なる）。また図表のなかの文字は、用紙のマス目に揃える必要はない（自由な大きさに記入してよい）。

④その他は、大学入学までに習得してきた「原稿用紙の使い方」に従うこと。字数の計算も、一般的な作文や小論文と同じ基準に従っておこなう（例：段落冒頭の1字下げによる空白や、段落末尾の空白部分も字数に含める）。

⑤以上の①～④に関する質問は受けつけない。ただし使い方を誤っても、減点の対象としない。

1. 答案の作成方法

最初に「今回の試験では、どのような手順で答案を作成すべきだったか」について、講義でも説明した「論文答案の作成方法」に即して、検討することにします。

①問題文を読み、出題者の意図を理解する。

今年度の設問は単純で、「政治的リーダーシップの4分類」の説明が求められているだけです。ただし、3点ほど、気をつけるべき点があります。

ひとつめは「解答者であるあなた自身」が考えた「4分類」ではなく、「R. シュミットと高島通敏により提唱された4分類」について説明しなければなりません。

つぎに解答は「講義の内容を踏まえている」必要があります。講義で紹介した参考書などにも、シュミットと高島による4分類は言及されています。しかし解答に際して要求されているのは「講義でその点についてどのように説明されたか」です。したがって自分自身の認識や、他の教科書に書かれていたことを記しても構いませんが、少なくとも講義の中で言及されたことには触れなければなりません。

最後に、答案は420字以上でなければなりません。注意事項の最初に明記したとおり、この条件を満たさない答案は、自動的に0点となります。

②必要と思われる論点を（紙に）書き出す。

解答に含むべき「論点」については、講義レジュメの29ページを参照して下さい。答案では、これらの内容を順序立てて記述すべきですが、そのさいのポイントはいかに取捨選択するかでしょう。いろいろと細かいことを書き並べると、全体の答案構成が曖昧になりますから、瑣末な論点は思い切って割愛すべきです。他方で、重要なポイントを書きおとすと大きく減点されますから、そこにも細心の注意が必要です。最終的に「過不足のない」答案を作るためにも、ここで時間を使って「書くべきこと」「書くべきでない（不要・無駄な）こと」を精選して下さい。

③答案全体の論理構成を組み立てる。

つづいて「何をどのような順番で書くか」「どこで段落分けをするか」「どの論点にどの程度の字数を使うか」などを考えます。これらの諸点についても、答案を書き始める前に、時間をかけて検討しておくことにより、最後にできあがる答案の「読みやすさ」や「全体としてのまとまり」、あるいは「論点ごとの分量のバランス」が、まったく違ってきます。反対に、これらの検討をおろそかにしたまま、漫然と答案を書き始めてしまうと、「思いつくままにダラダラと書き並べたような答案」になりますので、高い点数（評価）は望めなくなります。

④実際に答案を書く。

（省略）

⑤きちんと読み直し、おかしい所がないかチェックする。

- I. この作業をきちんとすれば、誤字や脱字などはかなり減るはずですが。しかし残念ながら、誤字や脱字を理由に、減点した答案も少なくありませんでした。
- II. また「日本語として意味が通らない答案」も、複数枚見つかりました。これも一度、最初から読み直してみれば、すぐに気づくはずなのですが。こちらも当然、減点対象となります。

いずれにしても重要なのは、「問題文を見て、その場で思いついたことをダラダラと書き並べても、0点（これは比喻ではなく、本当に0点です）しかつけられない」ということです。あくまでも政治学入門という、特定の科目の最終試験なので、講義の内容とかけはなれた「政治的リーダーシップについて自分の思ったこと」を書いただけでは、合格点は絶対に取れません。

2. 最終試験の採点

①採点に際しては、最初に下記の諸点に留意しつつ、大まかなチェックを行いました。

I. 設問に対して、きちんと解答をしているか。

→前記「答案の作成方法」に記した通り、「講義の内容を踏まえて」「420文字以上で」解答していないものは、そもそも採点の対象にはなりません。

II. 論旨の明快さや論理性が、大学生にふさわしい水準に達しているか。

→一読して「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案は、大きく減点しました。また、段落わけがきちんとなされず、ダラダラと改行もなく書き続けている答案も、減点の対象としました。心当りのある人は、次回から「答案構成」をきちんと考えたうえで、解答を書き始めるようにして下さい。

III. 分量のバランスがとれているか。

→たとえば「4分類」のうち「伝統的リーダーシップ」ばかりに紙幅を割き、それ以外の3類型についてはそれぞれ1行で終り、というのではいけません。つまりそれぞれの論点の分量が、バランスよく配分されていない答案についても、減点の対象となります。

②つぎに、以下のようなポイントをきちんと押えているか、チェックしました。

I. 必要な論点が揃っているか。またそれぞれの論点について、きちんと説明されているか。

講義レジュメの29ページに挙げられた（あるいは私が口頭で説明した）、4つの類型の、それぞれの特徴について、どれくらい網羅されているかが重要です。また、ひとつひとつの論点について、きちんとした説明がされているかも大切です。たとえば各類型のリーダーシップに関して、ただ「ヴィジョンがある」「ヴィジョンはない」とだけ書かれ、そもそもヴィジョンとは何か、またなぜヴィジョンがない（ある）のかについて、十分な説明がされていないような答案を高く評価することはできませんでした。

II. 解答の分量が不足していないか。反対に無駄な記述が含まれていないか。

試験時間は80分ありますから、それなりに分量が書かれていないと、全体としての評価はさがります。また反対に、出題と全く無関係の事柄がいろいろ書かれている場合も、やはり評価は下ります。「書いて

置けば損にはなるまい」と考えたのかもしれませんが、結局「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案に近くなり、全体としての印象は悪くなるだけです。「求められる知識を、論理的に、かつ過不足なく書く」ことを心掛けて下さい。なお「まったく同じ内容を繰り返す書くことで、規定の字数にむりやり届かせた答案」も何枚もありましたが、内容が薄すぎて、合格点に達したものはありませんでした。また書き終わっていない「未完結の答案」についても、採点はしましたが、それなりに減点してあります。

III. 「基本的なミス」を犯していないか。

たとえば「政治的リーダーシップ」の意味そのものが判っていない答案に、合格点をつけることはきわめて困難です。また、それぞれの類型の内容を根本的に誤解しているような答案も、基本的な知識に欠けていると判断して、大きく減点しました。

③最後に、誤字脱字など、形式的なミスについてチェックをし、それぞれ減点しました。

こう書くと必ず、「読めればいいのではないですか」といいます学生が出てきますが、それでは同じように、誤字脱字だらけの履歴書やエントリーシートを、就職活動で提出したら、どういう結果になるかを考えてください。試験中は辞書を引けないので、ある程度までは大目に見ていますが、あまりに酷いものは、減点の対象としています。

またもうひとつ、「レジュメ形式」や「箇条書きの答案」が、複数枚ありました。「論述式答案の書き方」でも明言したとおり、大学の試験で「論述」を指定された場合、基本的にレジュメ形式や箇条書きは認められません（一文ごとに必ず段落変え＝改行しているものも含む）。これらは形式違反の答案として、大きく減点しています。そのような答案を書いた記憶のある人は、高校時代の「小論文」を想起して、あのような「論理的な段落わけと、内容的な起承転結のある」文章を書くようにしてください。

④その後、加減点や裁量点なども合算して、最終的な成績を算出しました。答案がボロボロでも、加減点のおかげでS評価になった人がいる一方、答案そのものは素晴らしいのに、加減点によりCになってしまった人もいます。したがって、成績表にSがついていたとしても慢心せず、またCだったとしてもガッカリせず、今後もよい答案が書けるよう、精進して下さい。

なお自分の答案について、より詳しいコメントや指導を希望するひとは、10月末日までにメールで連絡をもらえれば、随時対応します。私のメールアドレスはウェブサイトを書いてありますので、そちらに連絡をください。

3. 成績分布

①履修登録者全体（講義に一度も出席しなかった者も含む）における成績分布
（政治学入門Aのみの評価）

S : 15.7% A : 6.9% B : 3.4% C : 9.2% X : 20.7% F : 44.0%

（政治学入門全体での評価＝AとBの平均値）

S : 17.6% A : 7.7% B : 6.1% C : 5.4% X : 19.5% F : 43.7%

②最終試験受験者における成績分布

（政治学入門Aのみの評価）

S : 28.1% A : 12.3% B : 6.2% C : 16.4% X : 37.0%

（政治学入門全体での評価＝AとBの平均値）

S : 31.3% A : 13.6% B : 10.9% C : 9.5% X : 34.7%

4. 解答例

次ページ以下を参照して下さい。なお、以下に示すものはあくまでも「解答例」であって、この通りに書かねばならないわけではありません。

ン、つまり「めざすべき新しい社会のすがた」を提示する。東アジアの軍事的覇権を握ることに失敗した、1940年代後半の日本人に対して「これからの日本は経済大国をめざすべき」と説いた、当時の吉田茂首相などが、このタイプのリーダーといえる。

5. 投機的リーダーシップ

創造的リーダーシップと同じく、社会が行き詰ったときに登場するのが「投機的リーダーシップ」である。ただしこのタイプは、目の前の問題に囚われて、その場しのぎの指導をおこなうだけで、「これからめざすべき社会」の構想をもたない。選挙でフォロワーの支持を得るためだけに、非現実的な政策（たとえば税金を半減するなど）を提示したりするのも、このタイプのリーダーの特徴である。

6. まとめ

シュミットらがこれらのモデルを提示した背景としては、優れた政治的リーダーというものは、たんに優れた資質をそなえるだけでは駄目で、その時代の要求に合致しなければならないという考えがあった。

以上